

学校協議会記録

平成 25 年 6 月 19 日開催

学校協議会委員（全員出席）

大阪大学名誉教授・台湾大学客座教授

放送大学客員教授

笠井 俊夫 様

大阪大学ナノサイエンスデザイン

教育研究センター特任教授

奥山 雅則 様

前府議会議員（住吉高校OB）

若林 勝雄 様

大阪市立阪南中学校 校長

柴田 俊次 様

住吉高校後援会会長

川下 昭彦 様

住吉高校PTA会長

波々伯部 益尚様

本校出席者：校長、教頭、事務長、岡本首席、山中首席、乾、辻田（司会）、乾、
斎藤、藤井、榎阪

○本校の現状報告

- （１）本年度の学校経営計画について（校長より）
- （２）平成 24 年度進路結果について（乾進路指導部長より）
- （３）SSH事業について（岡本首席より）
- （４）EFHS事業について（斎藤国際文化科長より）
- （５）国際交流について（藤井指導教諭より）
- （６）ユネスコスクール活動について（山中首席より）
- （７）生活指導について（永山生活指導部長に代わって教頭より）

○協議と協議委員からの質問・提言

注）「協」は学校協議委員、「学」は学校側

○進路実績について

協：平成 24 年度の進路結果が不調なのはどういう理由からか

学：3 年生になる前に数学ができないので国公立大学をあきらめる生徒が国際文化科
で多い。また、24 年度においては成績に自信を持てない生徒が指定校推薦で決
めた生徒が 10 人増えた。その中には成績優秀な生徒もいるので、それも原因と考
えられる。

学：本校の課題は国際文化科の数学と総合科学科の英語の学力向上である。また、3
年生になって、センター試験まで気持ちを持続させる指導も必要である。

学：いわゆるGLHS（10校）に受検生が流れている状態下で進学実績を上げるこ
とは容易ではない。

協：それでも住吉を志願するのだから、中学校時代には数学・英語のできていない生徒はそれほどいない。入学後の興味、関心の持たせ方に工夫が必要ではないか。

協：基礎力定着＋弱点補強の施策が見つかるとうい。

協：中堅の国公立大学に力を入れたらどうか。

○英語教育について

協：帰国生徒を英語が使える生徒のモデルとして、他の生徒に見習わせてほしい。

協：大阪市も英語教育に力を入れている。

協：本校は様々な英語教育の取り組みが行われているが、学校で実際に英語を使う機会は少ない。海外からの生徒の受け入れをもっと盛んにして、学校に居ながらにして、英語が使える状態になればいい。

協：できる生徒はどんどん伸びるが、そうでない生徒はどうなっていくのか。そういった生徒の英語力強化のカリキュラムも考えてほしい。

協：国際人の育成を目指し、ボーダーレスの感覚を養う教育を。

○その他の本校独自の取り組みは

学：総合科学科の生徒は学校外での発表を英語ですることもあり、英語の能力は必要と感じているが、国際文化科の理数科目に対する取り組み方が問題。（卒業生を招いての進路講演会など。）

協：生徒の意識を変える必要がある。目標を持たせることが必要。

協：国際文化科の2年生は、3年次の選択科目決定時今（6月）なので、この時点で卒業後の進路を考えて科目選択をしなければならない。外国語系列の国公立大学が少なく、それが私学に流れる原因ではないか。

学：学校の外に向けては多彩な取り組みを行い、学内では学力保障を充実させる。と言う課題がある。本校は取組が非常に多く、その内容を精査、吟味する時期に来ている。

協：大学進学指導と英語活用能力育成は両立するのが難しい。

協：生徒指導の取り組みは素晴らしいものがある。社会人になったら遅刻は許されない、と言う厳しさを教えてほしい。また、得意な科目だけでなく、他の科目もしっかり勉強させる工夫をしてほしい。